

## 2015年1月4日 礼拝メッセージ

聖書：ヨナ書4章1～11節

説教：あわれみ深い神

あらすじ

預言者ヨナはあるとき、ニネベの町に行って神のさばきのことばを語りなさいと言われてます。ニネベの人々がひどい悪を重ね、神はそのことをさばこうとしているのです。しかし、ヨナは神の命令に従わず、ニネベの町とはまったく正反対の方向に逃げようと船に乗り込みました。ところが神は大風を吹かせ、そのため乗っていた船が沈みそうになります。ヨナは船に乗っていた人たちに、自分を海に投げ込みなさい、そうすれば海は静かになるだろうと告げ、結局彼は海に放り込まれてしまいます。船の人たちはそれで助かったのですが、一方ヨナはおぼれて死にかけます。ヨナはもがき苦しみ、「助けて」と叫んだとき、神は大きな魚を備えてヨナを飲み込ませ、救い出しました。

そんなことがあってから改めてヨナはニネベに向かいます。人々に、「もう四十日すると、ニネベは滅ぼされる」と叫びました。三日かけて町全体を回った後、町を離れ、すぐ東側にある小高い丘に向かい、そこに小さな小屋を建てました。神が本当にニネベを滅ぼすのか、それとも滅ぼさないのか。小屋の中に座りながら確かめようというのです。

ヨナが見ていると、すぐに変化が起きました。ヨナのことばを聞いて、身分の高い者から低い者まで、いや人間ばかりではなく家畜も一緒になり、町全体が悔い改める努力を始めたのです。きのうまで悪の限りを尽くしていた人たちが急にまじめになって、もう悪いことはしませんと言いだしたのです。それを

ご覧になった神はニネベを滅ぼすことを思い直しました。それが3章までのあらすじです。

### 1 ヨナが逃げた理由

神はニネベをさばかない、そのことがわかったとき、ヨナは主に向かって怒りをぶつけます。2節。「ああ、主よ。私がまだ国にいたときに、このことを申し上げたではありませんか。それで、私は初めタルシシュへのがれようとしたのです。私は、あなたが情け深くあわれみ深い神であり、怒るのにおそく、恵み豊かであり、わざわざを思い直されることを知っていたからです。」

ヨナが神の命令に従わず、ニネベとはまったく反対側にある町タルシシュに逃げ出したとき、なぜ彼が従おうとしなかったのか、なぜ逃げ出したのか、実はここまで一切説明がありませんでした。ヨナは不信仰なだったのかと疑いたくなるほどでした。ここで初めて私たちはヨナ逃亡の理由を知ることになります。ヨナは決して不信仰だったのではない。いやある意味で非常に信仰深い人とも言える。神はあわれみ深い方だと知っていたと言っています。あまりにもあわれみ深いので、きつとあとなって思い直し、ニネベの人々にわざわざを与えないだろう。それがわかっていた。だから逃げたのだと言うのです。

わざわざを与えない。それは結構なことではないか。それがどうしてヨナには気に入らないのか。皆さんがヨナになったつもりで考えてください。

ヨナは、ニネベがどれほどひどい悪を行ってきたかを知っています。聖書には具体的なことは書いていませんが、神がもう我慢ができないと考えるほどですから、よほどのことです。今でも私たちは、世界中でひどい犯罪のニュースを聞きます。宗教的正義を叫びながら、子どもたちが学んでいる学校を襲い、次々と子どもたちを殺す。連れ去った女の子を奴隷として売る。砲弾が飛んできて子どもの目の前で両親が死んでいく。まるで悪魔の仕業ではないのかと思うような事件が毎日起きています。こんなひどいことをしている人たちには必ず天罰が下るべきである。だれもがそう考えます。ヨナもニネベの人々を見て同じことを考えました。彼らは絶対に滅ぼされるべきである。

ところがどうなったか。ニネベはさばかれなかった。たった何日か悔い改めの姿勢を見せただけで、ニネベは救われた。彼らが犯してきた罪の重さを考えたら、あまりにも簡単すぎます。もっとも悔い改めが必要だ。もっとも苦しんで自分の犯した罪の償いをすべきである。それなのに、神はあまりにも簡単にニネベの人々を赦してしまう。ヨナはそのことが気に入らなくて怒るのです。

## 2 主の取り扱い

### 1) とうごまを備え、枯らしてしまう

そんなヨナに対し、主はどうされたでしょうか。6, 7節。「神である主は一本のとうごまを備え、それをヨナの上をおおうように生えさせ、彼の頭の上に陰として、ヨナのきげんを直そうとされた。ヨナはこのとうごまを非常に喜んだ。」

とうごまは、およそ三メートルほどの背丈があつて、大きな人の手のようなかたちの葉

を茂らせますから、強い日差しを避けるのに好都合です。ヨナはとうごまを非常に喜びました。ところが主はこのとうごまを枯らしてしまい、その上、焼け付くような東風を吹かせ、太陽の光でヨナを苦しめていきます。

ヨナもとんだ災難にあったものです。乗った船は大風に吹かれ、海に投げ込まれて死ぬような苦しみに遭い、魚に飲まれ、そして今度は熱い東風と太陽です。すべて神がヨナに向けて備えたものです。ヨナはたまりかねて叫びます。「私は生きているより死んだほうがましだ。」

神はどうしてこんなことをするのでしょうか。ヨナのきげんを直そうというのなら、せつかく生えさせたとうごまを枯らすことはないはずです。東風を吹かせることもなければ、強い太陽の光でヨナを苦しめる必要もないでしょう。ところが神はまるでヨナをいじめるかのような振る舞いをいたします。

### 2) ヨナの二つの怒り

今日の箇所、似たようなフレーズが繰り返されていることに気がつかれたでしょうか。最初は、4節。「主よ。今、どうぞ、私のいのちを取ってください。私は生きているより死んだほうがましです。」二つ目は、9節。「このとうごまのために、あなたは当然のこのように怒るのか。」ヨナは言った。「私が死ぬほど怒るのは当然のことです。」

どちらもヨナは死んだほうがましだと言っています。ところが、よく見ると死んだほうがましだと語る理由は同じではありません。最初と二つ目とは違っています。最初のほうは、神が悪い直してニネベを滅ぼさなかった。そんな神なら死んだほうがましだ、となっています。ところが二つ目は、神がと

うごまを枯らしてしまい、それで自分が苦しまなければならぬ。そのことに腹を立て、死んだほうがましだ、そういう流れになっています。

最初の怒りと二つ目の怒りを比べてください。最初の怒りは、正義が曲げられている、不公平だ。ヨナが怒るのももつともだと思えます。しかし二つ目の怒りはどうですか。とうごまが枯れてしまった。それで腹を立てています。死んだほうがましだと言っています。太陽の日差しがあまりにも強かったのかも知れません。けれども、だからと言って腹を立て「死んだほうがましだ」と言うのは、ちょっと大げさです。冷静に考えたら別に死ぬほどのことではありません。

ヨナのことを笑えません。私たちだってこれと似たようなことをしているような気がします。物事が自分の思いとはまったく反対の方向に動くようなとき、悪いことが重なって八方ふさがりになったように感じたとき、別に死ぬほどのことではなくても、心の中では「死んでしまいたい」とつぶやく。皆さんも経験があるでしょう。

神はヨナの心の深い所にあるものをご覧になっています。あなたは自分は正しいのだと言い張っているけれど、あなたの怒りはどこから来るのか。結局突き詰めれば、自分の思い通りにならない、だから怒る。そういうことではないのか。ニネベは滅ぼされるべきである。とうごまはいつまでも青々と茂っていないかならぬ。そこから一つでも外れるようなことが起ると怒り出します。

いったい救いは誰のものだったのですか。実は、ヨナは自分の口で告白していました。荒れ狂う海の中でおぼれて死にかけたとき、神に逆らっていた自分が救い出された。そん

な経験を通してヨナは2章9節で、「救いは主のものです」と言った。ニネベを滅ぼすか救うか、それはすべて主が決めることです。私たちがとやかく言うことではない。だれがなんと思うとも、救いは主のものなのです。

ヨナは自分が救われた経験を通して、神のあわれみを十分に知っていたつもりでした。けれどもまだわかっていなかった。神のあわれみは、私たちが想像している以上に深い。私たちが「それはあまりにも不公平ではないか」と腹を立てるほど神はあわれみ深かったのです。

### 3 あわれむ神

ヨナは、ニネベの人々のいのちのことは惜しいとは思いません。そのいっぽうで、一本のとうごまが枯れてしまうと死にたいと思うほど、とうごまのことを惜しみました。

主はどうでしょうか。「そこには、右も左もわきまえない十二万人以上の人間と、数多くの家畜がいるではないか。」ひどい悪を重ねていたニネベの人々のいのち、そこにいる家畜たちのいのちを惜しみました。ヨナが「それは不公平だ」と怒るほどに惜しみました。

本当に不公平なのでしょうか。そのために主は何を惜しまなかったのでしょうか。父なる神のひとり子は、十字架でいのちをお捨てになりました。神は、私たちのいのちを惜しみます。絶対に滅んではならない。そのためには、ご自分のいのちを差し出して惜しみません。

水に流してなかったことにしましょう、ではありません。どこまでも罪は残ります。どこかで必ず罪のさばきがなされる必要があります。どこですか。主がさばきを思い直

すというのなら、そこに十字架が立てられて  
いきます。

ヨナは思いました。神はなぜニネベの人々の罪を赦し、救うのか。それはあまりにも不公平ではないのか。しかし、神は私たちの罪を赦すために、ご自分のいのちを差し出したのではないですか。いったいどちらが不公平なのでしょうか。ヨナが怒れば怒るほど、神がどれほどあわれみ深いのか浮き上がって参ります。